平成22年度　幌加内町普通会計バランスシート

今回は、町の現在の会計では表に出てこない資産・負債の状況を総括的に明らかにするため、「バランスシート」を作成しましたのでお知らせします。

【平成23年3月31日現在】　　（人口：1，712人）

借　方

【資産の部】

				（町民1人当：千円）
① 有形固定資産				
1 総務費	17 億	9,873 万円		（ 1,051 ）
2 民生費	7 億	148 万円		（ 410 ）
3 衛生費	7 億	80 万円		（ 409 ）
4 労働費		285 万円		（ 2 ）
5 農林水産業費	16 億	342 万円		（ 937 ）
6 商工費	6 億	6,797 万円		（ 390 ）
7 土木費	39 億	7,475 万円		（ 2,322 ）
8 消防費		633 万円		（ 4 ）
9 教育費	54 億	9,962 万円		（ 3,212 ）
10 その他		8,732 万円		（ 51 ）
有形固定資産合計	**150 億**	**4,327 万円**		（ 8,788 ）
（うち土地	6 億	3,596 万円）		（ 371 ）
② 投資等				
1 投資及び出資金		1,844 万円		（ 11 ）
2 貸付金		9,658 万円		（ 56 ）
3 基金及び積立金	14 億	9,961 万円		（ 877 ）
投資等合計	**16 億**	**1,463 万円**		（ 944 ）
③ 流動資産				
1 現金・預金	18 億	4,008 万円		（ 1,075 ）
2 未収金		1,102 万円		（ 6 ）
流動資産合計	**18 億**	**5,111 万円**		（ 1,081 ）
資産合計	**185 億**	**901 万円**		（ 10,813 ）

貸　方

【負債の部】

				（町民1人当：千円）
① 固定負債				
1 地方債	33 億	7,781 万円		（ 1,973 ）
2 退職給与引当金	4 億	2,603 万円		（ 249 ）
固定負債合計	**38 億**	**384 万円**		（ 2,222 ）
② 流動負債				
1 翌年度償還予定額	5 億	2,521 万円		（ 307 ）
2 翌年度繰上充用金		0 万円		（ 0 ）
有形固定資産合計	**5 億**	**2,521 万円**		（ 307 ）
負債合計	**43 億**	**2,905 万円**		（ 2,529 ）

【正味資産の部】

1 国庫支出金	25 億	9,731 万円		（ 1,517 ）
2 道支出金	12 億	8,956 万円		（ 753 ）
3 一般財源等	102 億	9,309 万円		（ 6,014 ）
正味資産合計	**141 億**	**7,996 万円**		（ 8,284 ）
負債・正味資産合計	**185 億**	**901 万円**		（ 10,813 ）

土地、建物など長期間にわたって行政サービスを提供するために使用される資産で有形であるもの。土地を除いては減価償却しています。

「ほろかない振興公社出資金」「中小企業融資預託金」「奨学資金貸付金」などがあります。

「JRパス転換対策基金」や「社会福祉基金」など年度間で流動性の低い基金です。

「財政調整基金」「減債基金」など年度間で流動性の高い基金です。

町税や使用料などのうちまだ収入されていないお金です。

道路や建物などを整備するために国などから借りているお金で、翌年度以降に返すお金です。

年度末に役場全職員が普通退職すると仮定した場合の退職金総額です。

国などから借りているお金で、翌年度に返すお金です。

資産を形成するために使ったお金のうち、国や道からの補助金、税金などの総額です。これらのお金は返済が伴なわないので正味資産（純資産）とします。

⇓　一世帯当りに例えてみると・・・・

一世帯当りのバランスシート（837世帯）

借方＝資産		貸方＝負債＋純資産	
有形固定資産＝家、土地、車など	1，797万円	負債＝家、車などの借金の残高	517万円
投資など＝定期預金など	193万円	正味資産＝資産形成のための自己資金	1，694万円
流動資産＝現金、普通預金	221万円	（既に支払い済みのお金）	
合計	2，211万円	合計	2，211万円

一般的に企業が利益の追求を目的にしているのに対して、町は、住民福祉の向上を目的にしており、利益の概念をもっていません。従って、このバランスシートでは、通常企業が求める債務弁済能力等を見たり、各会計年度の期間損益計算を補助するための手段としてではなく、経営資源の状況とその調達財源の状況を表しています。

左側（借方）は、『資産』として、町がどのような資産を所有しているか、言い換えればどのような資産に資金を投入しているか、『資産の運用状況』を示します。

右側（貸方）には、資金をどのように集めたか、『資金の調達状況』を示しております。これには、地方債（借金）や将来の支出を義務付けられたもの（退職給与引当金など）を『負債』として、また、国・道補助金や税金等の一般財源を『正味資産』（自己資本）と表しています。

◎バランスシートによる分析

○資産形成の世代間負担比率

公共施設や基金などの資産の形成が、どの世代の負担に多く依存しているかを表します。

・これまでの世代によってすでに負担された割合

正味資産合計　÷　資産合計　＝　141億7，996万円　÷　185億901万円　＝　76．6　％

・これからの世代によって負担される割合

負債合計　÷　資産合計　＝　43億2，905万円　÷　185億901万円　＝　23．4　％

○歳入総額対資産の比率

歳入総額に対する資産の比率をみることにより、資産が何年分の歳入に相当するかを表します。

資産合計　÷　平成22年度歳入総額　＝　185億901万円　÷　46億3，552万円　＝　4．0年分

（このバランスシートは、総務省の「地方公共団体の総合的な財政分析に関する調査研究会報告書」に従い、作成しております。）